

僧侶がまちに出て仲間をつくるガイドブック
まちとつながるために

真宗教化センター 寺院活性化支援室

もくじ

はじめに	1
他者の願いをきく、コーディネーターの役割	2
コーディネーターに求められる5つのスキル	3
01 まちとつながるために	4
02 あなたの好きなこと、得意なことはなんですか？	6
「おしゃべりする」ことから始めよう	8
「情報発信する」ことから始めよう	10
「集まる場をつくる」ことから始めよう	12
「自分でやってみる」ことから始めよう	14
コラム 取り組みを記録に残そう	16
03 取り組みのヒント	17
企画をつくってみよう	18
助成金にチャレンジしてみよう	20
仲間を増やそう	21
共感を呼ぶデザインや写真を意識しよう	22
04 井波別院瑞泉寺とまちの取り組み	23
インタビュー「お寺とまちをつなぐ」	24
コーディネーター研修の流れ	28
関連冊子紹介	29

はじめに

地域社会にあったつながりは、速度を上げて変化しています。お寺を開いたり、顔の見える関係をつくる努力はしているものの、人々の孤立は深刻化しています。

お寺とまちがつながるために輪番や住職がひとりでがんばるのには限界があります。こうした状況をゆっくり変えていく基盤となるのは、**対話**です。普段は口にしない他者の願いを知り、互いの願いを知り合うと**承認関係**が築かれていきます。対話を重ねてできた心地よい関係は、願いを実現したいという**行動**を伴います。行動を起こすには勇気が必要ですが、まちの歴史と他地域の取り組みを学び、身近なところで**小さく実験**すれば、失敗することはありません。一步行動に踏み出すことで役割がうまれ、**居場所**ができ、毎日が少しずつ楽しくなっていきます。

対話からはじまる一連の経緯は**自治**と言います。住民自治に取り組むことを本書では、**仲間をつくる方法**と呼んでいます。すでに仲間づくりに取り組んでいる方も多いと思いますが、より多様な視点を取り入れ、アナログな方法もデジタルな方法も導入できるよう取り組みの変化を写真でも図解していきます。では早速、あなたの願い、まちの願い、社会の願い、人類の願いがぶつからないように、対話から仲間をつくる方法を井波別院瑞泉寺活性化プロジェクトをベースにご紹介します。



他者の願いをきく、コーディネーターの役割



他者の願いをきくことからはじめて、現代にあわせた自治の調整役は、「コーディネーター」と一般的には呼ばれています。コーディネーターといっても、住環境福祉コーディネーター、災害などのボランティアコーディネーター、仏事コーディネーター、カラーコーディネーター、ブライダルコーディネーターなど、さまざまなコーディネーターがいます。

すべてのコーディネーターに共通する役割があります。それは、実現までの道のりに「寄り添う」ことです。寄り添うためには、のびのびと対話できる環境を整えます。相手の願いをきくには、相手にたくさん語ってもらいま

す。そこで語られたことを踏まえ、実現するために調整することも必要です。バランスがとれた状態とはどんな状態なのかを想像し、その上で過不足を丁寧に把握します。

バランスをとるために必要なのは、情報、デザイン、予算等を対話から検討することです。その時に気をつけたいことは、相手は年齢や状況に関わらずあなたと同様に何かをよくしようとする存在だということです。相談者と解決者という関係にならないよう、謙虚な姿勢で人と人として出会い、どんな段階においても互いの知恵を共有しあいましょう。それでは、お寺とまちをつなぐ「コーディネーター」に必要なスキルを見ていきましょう。

コーディネーターに求められる5つのスキル

お寺とまちをつなぐコーディネーターが、以下の5つのスキルを意識しながら活動すると、仲間をつくるための取り組みが進めやすくなります。

1 発見する



2 きく



3 伝える



4 考える



5 つなぐ 協力する



まちには魅力や課題、そこに暮らす人たちのニーズがあります。また、まちで活動する団体や個人にも魅力や課題、ニーズが必ず存在します。まずはまちをよく観察し、時にはまちの人たちの話を聞き、魅力や課題、ニーズに気付くことがその後の活動のヒントになります。

まちの人の想いや考えを語ってもらうには、相手に向き合い、共感するポイントでは大きくうなづいて話をきくことが大切です。興味を持って話を聞いていることが伝われば、相手も素直に自分の想いや考えを話しやすくなります。

まちのことや、まちで活動している人たちのことを魅力的に伝えることで、活動への共感の輪が広がります。また、まちには年齢も職業も様々な人がいます。相手に合わせてわかりやすい言葉にしたり、時には写真やイラスト、動画などを使って伝える工夫も必要です。

新しい企画（取り組み）を考えるのに必要なスキルです。「やってみたい」という衝動から、企画の内容やネーミング、その企画が楽しそうか、参加してみたいと思える内容になっているなど、客観的な視点と想像力が必要です。

活動に興味のありそうな人や団体同士を紹介したり、交流会やイベントでお互いに知り合う機会をつくりたり、一緒に考え学び合う場をつくるなど、まちで活動している人たちの活動が横につながることでより活発になり、新しい企画が生まれるきっかけをつくることができます。

01 まちとつながるために

まちのなかをよく見てみると、いろいろな人たちが暮らしています。カフェやレストランなどお店をやっている人、建築士やイラストレーター、デザイナーなど自分の得意を活かして仕事をしている人、趣味を活かして活動している人、こんな人たちがみなさんのまちにもきっといるはずです。一見お寺と関係ない取り組みに見えるかもしれません、お寺の歴史やそこにかけられた願い、文化

などの魅力がそれらの取り組みと組み合わさることで、新たな取り組みが生まれるかもしれません。そして、お寺の魅力をまちの人たちの取り組みとつなぐのがコーディネーターの役割です。お寺をテーマにして個々の取り組みをつなぎ、まちの人たちが一緒に動き出すきっかけをつくることができるのは、コーディネーターがいるからこそなのです。



02 | あなたの好きなこと、得意なことはなんですか？

まちの人たちと知り合いになるきっかけがない、まちの人たちがどんなことに興味を持っているのかがわからない、そんなときにはあなたの好きなこと、得意なことを活かして仲間をつくるきっかけにしましょう。この冊子では4つの好きなことを例にまちとつながる方法を紹介します。

好きなことから始めてみましょう

以下の4つのなかから、あなたの好きなことに近しいものを選んでみましょう。

おしゃべりが好き・
人の話をきくのが好き



行ってみたかったカフェを会場に知り合いを集めてお茶会をしてみたり、まちで人気のスイーツを食べながらお寺でお話し会を開催するなど、気軽に参加できる機会をつくることで一緒に活動する仲間が見つかるかもしれません。参加者が次の機会に友人や仲間を誘うことができるように、定期的に開催するのがおすすめです。

散歩が好き・
写真を撮るのが好き



まちを歩きながら、あなたがいいなと思ったものを写真に撮ってみましょう。また、まちのカフェやパン屋さんなど、お店の方から話を聞いてみると新しいまちの魅力が見つかるかもしれません。そんな日々の様子をInstagramやFacebookなどのSNSで発信することで、まちの人たちとのつながりをつくりましょう。

▶詳しくは10ページへ

まずはココから！

まちをよく見てみましょう！

まちをじっくり観察してみることが大切です。見慣れたまちを観光客の気分になってゆっくり歩いてみると、普段気づかない場所やお店、人にお会えるかもしれません。あえていつもは通らない道、路地を歩いてみるのもおすすめです。



D.I.Y.が好き・
ものづくりが好き



まちのみんなが気軽に集まることができる場所をつくってみましょう。お寺の中の使っていない空間や屋外でもよいでしょう。まずは空間づくりのため、まちの人たちを巻き込んで、ベンチをつくってみたり、壁のペンキ塗りなどをしてみたり。自分がつくるのに関わった場所には自然と愛着が湧くものです。

▶詳しくは12ページへ

思いついたらすぐ行動派・
イベントが好き



あれこれ考えているよりも、まずは小さくやってみる。いきなり大きなイベントをするのではなく、仲間数人とできる範囲のことを企画してまちの人を招待してみましょう。その時に大切なのは自分自身が楽しむことです。まちの人が数人参加してくれれば大成功！、これぐらいの気持ちでやってみましょう。

▶詳しくは14ページへ



▶「おしゃべりが好き・人の話をきくのが好き」なあなた 「おしゃべりする」ことから始めよう

お寺とまちをつなぐための取り組みのヒントは、地域の人たちの好きなこと、得意なことの中にはあります。会議のような堅苦しい雰囲気ではなく、気軽に参加でき、気軽に発言できる楽しい雰囲気をつくることが大切です。

はじめ方

1 集まる場所を探そう

行きつけのカフェや喫茶店、お寺の空きスペースなど、みんなで気軽におしゃべりできる場所を探しましょう。

2 おしゃべり会を企画しよう

おしゃべり会、お茶会などタイトルを考えましょう。そして来てほしい参加者の属性を考えて、参加しやすい開催日時を決めましょう。

◎仕事をしている人：平日夜や土日祝日など 子育て中の女性：平日の午前中

3 参加者を集めよう

参加してくれそうな人に声をかけてみましょう。知り合いから小さく始めるのもいいですし、知り合いの知り合いを誘ってもらうなどの方法もあります。

4 自己紹介をおしゃべりのきっかけに

はじまりは自己紹介から。自分の好きなことや趣味、最近はまっていることなどを紹介してもらいましょう。取り組みのヒントが見つかります。



1 まちで話題のカフェを会場に

カフェでおしゃべり会というだけで、参加のハードルはぐっと下がります。ペット、旅行など参加者が興味のありそうなテーマで開催してみるのもよいでしょう。

準備物●名札カード

コーディネーターの役割

対話の中から参加者の好きなこと、得意なことに耳を傾けましょう。この時に大切なのは話を聞く力です。適度な相槌や表情豊かに話を聞きましょう。また、今後のために参加者との連絡先交換も忘れないでください。



仏教用語コラム

わげんあいご
和顔愛語



いろいろな個性の仲間が集まると、時に意見が対立することもあるかもしれません。“寺院活性化”的会話の基本は笑顔で「Yes, and」(それいいね!さらにこうしよう)。ここに集った一人一人の声に耳を傾けることを大切に…。そこには、仏さまの教えに出あった者に開かれる、目の前の人を優しく包み込む「和顔愛語」の世界があるような気がします。



▶「散歩が好き・写真を撮るのが好き」なあなた

「情報発信することから始めよう

お寺のあるまちの紹介をきっかけに、お寺とまちがつながることがあります。お寺のことを情報発信している方も多いと思いますが、あえてまちのお店のこと、まちの人のことを情報発信してみましょう。

はじめ方

1 まちを歩いてみましょう

いつも通らない道も歩きながら、まちのなかにあるお店や気になるもの、紹介したい人を見つめましょう。

2 魅力的な写真を撮ろう

雑誌、Webサイト、SNSなどから、いいなと思った写真を集めてみましょう。集めた写真を参考に、「かわいい」など共感を集める写真を撮りましょう。

▶「撮影」のヒントは22ページへ

3 SNSで投稿するための情報を集めよう

紹介記事を作成するために、お店の人、まちの人々に話を聞きましょう。お店の基本情報（営業時間やこだわりなど）は忘れずに確認しておきます。

4 SNSで投稿してみよう

写真を投稿するのに適しているのがInstagramです。投稿を見た人がそのお店に行けるように、営業時間や商品のことなど具体的に載せましょう。



1 SNSの投稿時間

Instagramのユーザーは10代、20代、30代が中心で、特に女性のユーザーが多いといわれています。学校や仕事が終わり、家でくつろいでいる時間帯に投稿すると目に触れる機会が多くなります。

コーディネーターの役割

お店やまちの人の魅力をたくさん語ってもらいやすい文章で伝えることが必要です。あなたが投稿するSNSがまちのガイドブックになるように、定期的にまちのことを情報発信しましょう。



仏教用語コラム

にょぜがもん
如是我聞



何かを伝えるとき、みんなの正しいお手本にならなくてもいいんです。あなたが動いているその姿が、みんなの見本になるのです。「私はこんな風に動いてみたよ」、「やってみたらこんな感動があったよ」…。“寺院活性化”的情報発信は、まさに「わたしはこう聞いたよ」という「如是我聞」の世界が拡がっていくことなのだと思います。



► 「D.I.Y.が好き・ものづくりが好き」なあなた 「集まる場をつくる」ことから始めよう

お寺とまちをつなぐ場所でどんなことをしてみたいのか考えてみましょう。まちの人たちに意見を聞いてみるのもよいでしょう。使い方が決まったら空間づくりです。1人で全部やってしまうのではなく、まちの人たちを巻き込んで一緒につくっていくことが大切です。

はじめ方

1 場所を探そう

お寺の中で現在使っていない場所、まちの人たちが来やすい場所を探してみましょう。

2 使い方を考えよう

まちの人たちが集まって話ができる場所なのか、何かを販売するお店にするのか、まちの人と一緒にどんなことがしたいかを考えましょう。

3 D.I.Y.や改修の計画を立てよう

資金、時間、人手のバランスを考えて、どこまで改修するのか、スケジュールを組み立ててみましょう。

►「活動資金の集め方」のヒントは20ページへ

4 みんなでつくろう

ゆっくり時間をかけて、まちの人たちと一緒につくることが大切です。大工さんなど専門家を巻き込んで安全に作業しましょう。



1 イスやテーブル、屋台をつくってみる

お寺にある屋外空間をうまく活用する方法もあります。まちの人たちが座っておしゃべりしたりお茶を飲んだり。移動式やコンパクトに持ち運べる屋台があればまちのカフェが出張してくれるかもしれません。

コーディネーターの役割

まちのニーズをしっかりと把握することが必要です。集まる場所だけつくっても結局使われないということにならないよう、まちの人の声を聞き、その場所にどのような機能が必要なのかを整理しましょう。



仏教用語コラム

こうだいむへんざい
広大無辺際



何人かが集まると「ここは私の場所」という思いが交錯します。時にぶつかり合うこともあるでしょう。ここに集った一人一人が他の人を排除せず、それが得意分野を發揮して、安心して存在できる場所を目指して…。“寺院活性化”的集いの場は、ここにある個性のひとつひとつが主人公として輝ける、まさに仏さまに教えられる「広くて辺のない世界」なのでしょう。



▶「思いついたらすぐ行動派・イベントが好き」なあなた 「自分でやってみることから始めよう

お寺とまちをつなぐ取り組みをまちの人たちに実際にやってみせるということも大切です。具体的な活動をやってみると、興味を持って参加してくれる人、取り組みを手伝ってくれる人などいろいろな関わりが生まれます。

はじめ方

1 やってみたいことを企画してみよう

やってみたいと思っていたことを、企画書にまとめてみましょう。いきなり大きなことをするのではなく、まずは小さく試してみましょう。

▶「企画書」のフォーマットは19ページへ

2 仲間に声かけしてみよう

企画書をもとに一緒に企画を進める仲間を集めましょう。全て自分でやるのではなく、仲間と知恵を出し合い、共に実現に向けて動きましょう。

3 イベントを周知しよう

イベントの1か月前を目安に、SNSやホームページ、チラシなどで参加者を募りましょう。

4 続けて開催していこう

大きなイベントは何度も開催できません。日常的に開催できる規模感のものにし、定期的に開催できるようにしましょう。



門前がいつも賑やかになつたらいいなと思ったら…

やってみよう

- ・開かれた取り組みをやってみる
- ・テーブルと椅子を用意
- ・みんなでできることを持ち寄る



1 まちの人たちのワークショップ

まちには得意技や多彩な趣味を持った人がたくさんいます。竹籠がつくれたり、絵本の読み聞かせができたり。まちの人が自分の得意を持ち寄って順番にワークショップを開催するのもよいでしょう。

コーディネーターの役割

自分が参加したいと思うか、無理なく楽しんでできる規模感のかを考えながら企画をつくりましょう。また参加者をお客さん扱いするのではなく、これから一緒に活動する仲間になるかもしれないと思いながら声掛けしましょう。



仏教用語コラム

さん
僧
伽



間違っていてもいい、ぎこちなくともいい、まずは自分でやってみる。どうがんばってみても、食べたことのない食べ物の味はわかりません。「おいしそう!」、「ちょっと試してみようかな?」、きっかけはなんでもいいんです。それぞれのご縁で出あった教えの味を語り分かち合う「僧伽」のように…。“寺院活性化”は、まずは自分が食べてみることからはじまります。

コラム

取り組みを記録に残そう（アーカイブの残し方）

取り組みを継続する中で、記録写真や動画が役立つシーンがたくさんあります。余裕がある時に、これまでの取り組みをレポートにもまとめておきましょう。

写真で残そう

日々の話し合いや取り組みの様子など、必ず写真で記録しておくようにしましょう。SNSでの発信で使えるだけではなく、取り組みを紹介するときや、イベントのチラシなどにも使えます。

▶「撮影」のヒントは22ページへ



動画で残そう

イベントなどの開催時には、動画を撮影しましょう。手振れに注意すればスマホの撮影で十分です。簡単に動画を編集できる無料のスマホアプリもたくさんあります。

▶動画を編集できるアプリ例（iPhone・Android対応）
InShot、VLLO、Quikなど



レポートに残そう

話し合いの結果などはニュースレターにまとめましょう。議事録とは違い、写真を多く入れ、わかりやすい文章で作成することで、話し合いに参加していない人にも場の雰囲気を伝えることができます。

▶レポートの種類
ニュースレター（紙媒体）、note（オンライン）、ブログなど



ここからは実際にお寺とまちをつなぐ活動をしていく上で、必要なことをご紹介します。まずは仲間と一緒に取り組みを進めていくために、きちんと企画書をつくります。また、活動の初動期は準備や取り組みを継続させるための資金が必要になります。

助成金などを上手に活用して活動の基礎をつくることが必要です。また、取り組みの方向性が見えてきたら、一緒に活動したいまちの専門家を探してみましょう。取り組みに共感してくれる人を増やすために、デザインにも気を配りましょう。

企画をつくってみよう

お寺とまちをつなぐ取り組みをまちの人たちと一緒にやってみせるということも大切です。具体的な活動をやってみると、興味を持って参加してくれる人、取り組みを手伝ってくれる人などいろいろな関わりが生まれます。

1

話し合いのコツ

イエス、アンド (Yes, and)

いいですね(肯定)、さらにこうしませんか(膨らませて提案)という話し方を繰り返していくコミュニケーションの方法です。Yes, and の逆が No, but(否定)です。Yes, and は相手の意見を受け入れて、さらに提案を膨らませていくため、対話の場でアイデアがどんどん広がります。否定されることなく安心して意見やアイデアが出せる雰囲気であれば、どんな人にとっても参加しやすい場になります。

2

アイデアを企画にするコツ

アイデアの整理

たくさん出てきた意見やアイデアは、内容が似たもの同士で整理してみると、みんながどのような活動に興味を持っているのかがわかります。みんなが興味を持っているものからやってみるという方法もありますが、わくわくする順、すぐにできそうな順などの視点で優先順位を整理して実践してみるという方法もあります。また、アイデアを組み合せてみる方法もあります。

3

企画をブラッシュアップするコツ

事例をさがす

他の地域ではどのような取り組みがあるのかを調べてみることも大切です。Web サイトで検索してみたり、書籍や雑誌などで事例を集めて情報を蓄積しておくと、今後の活動のヒントにもなります。事例から「こんなやり方があったのか！」とあなたが思った点を参考にして、アイデアに磨きをかけましょう。

4

企画を小さく実践するコツ

企画書を書こう

①～③ のステップを踏んだら、企画をやってみたいメンバーと一緒に下記の項目に沿って取り組みの内容を整理していきましょう。



企画書

①企画タイトル

②企画内容

③企画の目的

④実施日時

⑤会 場

⑥定 員

⑦参加費

⑧実施者(団体名やチーム名) / 連絡先



助成金にチャレンジしてみよう

集まる場を整備したり、取り組みを知ってもらうための冊子やチラシなどの広報物をつくるために、取り組みの初動期には資金が必要になることがあります。

クラウドファンディングのしくみを使って活動資金を集める方法もありますが、公共性のある活動であれば、助成金などの制度が活用できます。助成金の特徴を踏まえて応募できるものを探してみましょう。

どんな助成金があるか調べてみよう

さまざまな助成金がありますが、以下に助成金(一部)をご紹介します。

主 体	内 容
都道府県や市区町村が実施している助成金	空き家活用や改修に対する助成、市民活動支援に対する助成など様々なメニューがある。 都道府県や市区町村のHPや市民活動センターのHP
日本財団	公益活動団体に対して、幅広い分野で助成による支援を行っている。年間を通じて複数の助成プログラムで申請募集がある。 https://www.nippon-foundation.or.jp
トヨタ財団	生活・自然環境、社会福祉、教育文化などの領域にわたって、時代のニーズに対応した課題をとりあげ、その研究や事業に助成を行う。 https://www.toyotafound.or.jp/
ベネッセこども基金	子どもたちの学びの機会づくりや環境整備などの支援に取り組んでいる。 https://benesse-kodomokikin.or.jp/

助成金に応募するために

助成金に応募するためには、応募書類を作成し、それぞれの助成金の目的を十分に理解した上で、できるだけ具体的に活動の内容を書きます。宗教法人であってもまちづくりのための任意団体を立ち上げるなど工夫次第で活用できる助成金もあります。

- なぜこの活動をするのか、社会やまちにとってなぜこの活動が必要なのか、活動することで実現したい未来をできるだけ具体的に整理しておくことが大切です。
- どれだけ仲間を増やすことができるのかを提示することが必要です。活動に参加、協力する人、影響を受ける人など様々な関わり方をつくっておくことが必要です。
- 活動の実現可能性が高いことを示すことが大切です。時間的、資金的にきちんと検討された計画であることを提示しましょう。

仲間を増やそう

まちはさまざまな取り組みをする人たちであふれています。あなたの取り組みが具体的になってきたら、一緒に活動したい仲間を増やすことで活動がより広がっていきます。ここでは、あなたのまちにもいてくれそうな専門家を集めました。

カフェや雑貨店を営む店主



一緒に取り組めそうなタイミングは?

お茶会の開催やイベントでコーヒーを淹れて販売するときに心強い存在に。

建築士や工務店の店主



一緒に取り組めそうなタイミングは?

みんなで集まる場の改修、必要なツールなどをつくるときに欠かせない縁の下の力もち。

シェフや料理人



一緒に取り組めそうなタイミングは?

食事会のケータリングやイベントで飲食を提供したいとき。地元の食材を知る機会にも。

パティシエや菓子職人



一緒に取り組めそうなタイミングは?

お茶会やイベントでデザートを提供したいとき。おみやげを企画販売するときにも心強い。

デザイナー



一緒に取り組めそうなタイミングは?

イベントのチラシやロゴデザインをつくりたいときや情報発信の強い味方に。

イラストレーター



一緒に取り組めそうなタイミングは?

お寺やまち、取り組みを紹介するとき。イラストで取り組みのイメージ共有もスムーズに。

共感を呼ぶデザインや写真を意識しよう

最初からプロのようなデザインや写真を目指す必要はありません。普段あまり意識していない作業につづつ目を向けたり、ちょっとした工夫で仕上がりがとても良くなります。小さなこだわりの積み重ねが共感を呼ぶデザインにつながります。



素材と平行・垂直にこだわろう

取り組みを始めると、イベントの周知でチラシをつくり、装飾を手作りして会場に貼る機会が多くあります。そんなときは、チラシや看板の紙や素材にこだわってみたり、テープは平行になっているか都度チェックしながら作業を進めましょう。

▶ 素材にこだわる



ポスターや看板はそのイベントの顔。板に黒板塗料を塗ると何度も使える看板に変身。

▶ 平行・垂直にこだわる



テープは長さを決めてハサミでカット。対象物の直線と平行・垂直になるように留める。



スマホで撮る写真にこだわろう

SNSを使って取り組みの様子を発信するときに、写真的印象はとても重要です。撮影対象を決めたら水平位置をしっかり決めて撮影しましょう。撮った写真是掲載する媒体や発信する対象に合わせて、明るさや色味を加工するのも大事なポイントです。

▶ 水平にこだわる



撮影時は手ブレしないように両腕を締めて。撮影後スマホの編集機能で水平加工も可能。

▶ 色のトーンにこだわる



スマホの編集画面で明るさや色味を調整。フィルター機能で簡単に色の寒暖も表現可能。

富山県南砺市井波には数多くの彫刻の工房が軒を連ね、現在200人ほどの彫刻職人が暮らしています。瑞泉寺とまちをつなぐ活動が始まったのは2019年。井波のまちを暮らすように旅してもらいたいという想いから、僧侶、彫刻職人、民間事業者、行政職員などが参加してプロジェクトが始まりました。現在は任意団体「テラまちコネクト」として絵本やお念珠のアクセサリーなど物語のあるおみやげづくりを進め、瑞泉寺の旧売店を改修して「テラまち雑貨店」をオープン。まちの女性たちと一緒に運営が始まっています。

お寺とまちをつなぐ

井波別院瑞泉寺(富山県南砺市)の取り組み

富山県南砺市井波地域は日本随一の木彫で知られるまち。まちの中心には井波別院瑞泉寺があり、まちに暮らす人やまちを訪れる人から親しまれ大切にされているお寺です。今回は2019年に始まった「お寺とまちをつなぐ」プロジェクトの中心メンバー5名から「これまで」と「これから」の取り組みについてお話を伺いました。

これまでの活動で、特に印象に残っていることを教えてください。

齊藤 2019年に初めてワークショップに参加したときに、みんなから「いいね！」と肯定してくれる雰囲気があって、瑞泉寺でやりたいと思っていたことを何でも言えたことです。すごく楽しかった。

竹部 いろんな人が来て、語り合うことができる場があるというのは、本来のお寺の姿ですね。不思議と私も何でも話ができました。

前川 長い間閉まっていた瑞泉寺の売店を改修して、店の中がよく見える「テラまち雑貨店」ができたことですね。まちの皆さんにも目に見える変化として伝わったと思います。

竹部 地域発表会が印象に残っています。思い返せばプレゼンする機会がこれまでたくさんありました。その度に、井波やプロジェクトへの想いを真剣にしゃべってきました。

お話を聞いた人



常本哲生 輪番

井波別院瑞泉寺輪番。輪番の傍ら、今回の取り組みを影で支える存在。



齊藤優華さん

真教寺住職。寺子こどもえんの園長を務める。テラまちコネクト代表。



竹部俊樹さん

井波別院瑞泉寺列座。瑞泉寺の隣にある妙蓮寺の若院。テラまちコネクトの事務局長。

齊藤 ワークショップで関わってくれた方は、テラまち雑貨店での活動を通じて、自分の得意を広げている感じがしていいなと思っています。やってみたいという気持ちを持って、ここでなら実現できると関わってくれているのがとてもうれしいです。テラまち雑貨店で働いてくれているお母さんからも、コーヒーを淹れてみたい、お菓子を売ってみたいなどいろいろな提案をもらえます。その都度、どうしようかとみんなで決めていく楽しさがあります。

3年前(2019年)と比べてご自身の変化はありますか。

齊藤 今まで自分で考えて、自分で決めて、自分で責任を取らなきゃと思ってきたけれど、テラまちコネクトの活動は、一緒に考えて一緒に動いて、一人ではできないこともここではできると思えるようになりました。みんなの立ち位置が一緒で、何でも相談できることが心強いです。

竹部 井波のことがもっと好きになりました。今ではまちを散歩したり、新しくできたお店にも行くようになりました。また、この活動を通して、色んな方々と交わることで、まちを歩いていると声をかけてくださる方がたくさんいて、人の温かさを感じるようになりました。



前川大地さん

井波彫刻職人。井波彫刻協同組合の理事。テラまちコネクトの生産管理部長。



菊池正見さん

高岡教区教区駐在教導(職員)。お寺の研修など主に教区の企画を担当。テラまちコネクトの会計。

テラまちコネクト活動のあゆみ

チームづくり・研修 ものづくり・情報発信 助成金

年月	できごと
2019 12月	地域を元気にする人材育成スクールに採択される経済産業省ローカルデザインスクール(全5回) ワークショップ初回 ワークショップメンバーでまちあるき
2020 1月	念珠アクセサリー(ジュ・ジュエリー)やお休み処、テラ・テラス(ライトアップ)、マニアックツアーアイデアが生まれる
2月	地域発表会 地域の皆さんにプレゼンテーション
3月	ローカルデザインスクール東京発表会
4月	任意団体「テラまちコネクト」立ち上げ 南砺幸せ未来基金に事業応募
2021 1月	繪本づくりとジュ・ジュエリーの商品化に向けて事業スタート 休眠預金基金への応募
2月	門前の建物活用として、売店のリノベーションとお母さんたちの雇用に向けて事業開始 ジュ・ジュエリー商品デザイン決定 繪本のリデザイン完成 Instagram「いなみのかわいい」がスタート、瑞泉寺や井波のまちをかわいく紹介
3月	売店の名前が「テラまち雑貨店」に決定 オンラインストア化に向けて動き出す
7月	「テラまち雑貨店」の改修工事スタート 「太子伝会」で繪本、ジュ・ジュエリー、手ぬぐい、シールやマップの販売
8月	寺子こどもえんの子どもたちとペンキ塗り
10月	「テラまち雑貨店」プレオープン
11月	テラまちコネクトメンバーのコーディネーター研修スタート
2022 2月	「テラまち雑貨店」のプログラムづくりスタート
3月	強風で「テラまち雑貨店」ガラスや建具など大破
4月	「テラまち雑貨店」グランドオープン

菊池 今まで井波のまちって遠い存在だったので、よそのうちに来ている感じがしていました。それが今では、こんなお店があるのだと気軽に入れるようになりました。お店の人も親切に話しかけてくれて。まちの人の想いに触れている感じがします。

齊藤 井波にいても彫刻職人さんと彫刻について話をする機会がありませんでした。でもこの活動を通じて、改めて職人さんってすごいなと思いました。前川さんにどうしたらいいかなと相談したら、形になって返事が返ってくる。ノミ1本あれば何でもできるとはこういうことなのだとわかりました。職人さんに対するイメージが変わりました。



—輪番の立場から、これまでの活動を見てこられていていかがでしたか。

常本 お寺とまちをつなぐ活動をするときに、お寺側ががんばりすぎて職員のプライベートの時間がなくなってしまうのであれば、違う方向を考えなければならぬと思っていました。しかし、「テラまちコネクト」の皆さん、「南砺幸せ未来基金」や「休眠預金基金」の助成事業に応募しようとなった辺りから、自分の想像していたものとは違うエネルギーを目の当たりにし、この活動の主体は私の手から離れていくのだと思うようになりました。地域のために一生懸命やらなければならぬと自らを追い込んでいく姿に頼もしさを感じ、これからは、何かあったときには真摯に相談にのるぐらいの距離感で見守ろうと思いました。輪番や職員

が一生懸命やって先細りになるのではなく、広くまちの方々に関わってもらえるほうがいい、そう感じるようになりました。今では、「テラまち雑貨店」に地域で暮らす多くの女性がいろいろな形で関わってくださっています。連鎖反応でどんどん女性が増えてきて、いろいろな意見がどんどん出てきています。自分たちで仲間を増やしているのがすごいなと思います。瑞泉寺では、県文化財指定に向けて「未来継承推進委員会」を立ち上げました。若い人たちの動きを見て、50～60代の人たちもがんばっていこうという雰囲気になっています。まちがつながってきたなと実感しています。これから何が起こるかわかりませんが、ワクワクしています。

—コーディネーターとはどういう人のことだと思いますか。

竹部 まちを愛している人だと思います。私は今まで無自覚のコーディネーターだったのかもしれません。他の地域に行くと井波の自慢をしてしまいます。まちに誇りを持っていることが必要だと思います。

前川 何かやりたいことがあったときに、誰に話をすればいいか、その順番や段取りを考えています。また実現するタイミングも大切ですね。私は彫刻組合にも所属し、井波で起業を考える若者を支援する団体「ジソウラボ」の活動にも参加しています。それのところで、「テラまちコネクト」のアピールもしながら、有益な情報を持つて来ることを心がけていました。

齊藤 やってみたいことがある人を応援する。そのやってみたいことを実現するために、誰かとつなぐのがコーディネーターの役割なのかなと思っています。

菊池 齊藤さんの想いを前川さんがみんなにわかりやすい言葉に言い換えていたことが、印象に残っています。

齊藤 私の想いを、前川さんは的を射た言葉で伝えてくれました。

菊池 伝える相手に合わせて、言葉を変換して伝えるというのもコーディネーターの大切な役割だと思いました。



—お寺がまちの人にとって身近な存在になるにはどんなことが必要だと思いますか。

齊藤 井波の人たちは、みんなの瑞泉寺という気持ちを持っていると思います。私にも父が大好きだった瑞泉寺という大切な思い出があります。

竹部 瑞泉寺が元気じゃないと、井波のまちも元気にならない。そういう想いでこの3年間活動してきました。

前川 私が子どもの頃は、夏休みに瑞泉寺を探検したり、遊び場にもなっていました。「太子伝会」にはたくさんの方がお参りに来ました。今の子どもたちにとっても、瑞泉寺が気軽に遊びに来れる場所になったらいいなと思います。子どもの頃の原風景の中に瑞泉寺があって、大人になったら実はすごい歴史のあるお寺だったということがわかるのがいいなと思っています。

齊藤 寺子こどもえんの子どもたちはよく遊びに来ています。瑞泉寺をすごく身近に感じてくれていると思います。子どもの頃は広いお寺で遊んだということしかわからなくても、大人になってから床板一枚にも工夫があるなど、すごさがわかることがいっぱいあるのがいいですね。

竹部 子どもは境内に行きたいと言う、お母さんはテラまち雑貨店に行きたいと言う、そんな親子の姿を見てうれしくなりました。子どもを

連れたお母さんたちが瑞泉寺に来てくれるようになったなと実感しています。

齊藤 井波に結婚を機に移住したお母さんたちは、瑞泉寺のことを知らないことが多いですね。おじいちゃん、おばあちゃん、子どもは知っているけれど、お母さんたちが知らないことはよくあります。「テラまち雑貨店」をきっかけに、お母さんたちに瑞泉寺を知ってもらえたうれしいです。

常本 瑞泉寺はお太子様のお寺ですので、お太子様の物語のような絵本ができたらうれしいですね。聖徳太子1400回忌と併せて展開していくといいなと考えています。

齊藤 絵本をつくることを通じて、お母さんたちにも、瑞泉寺とお太子さんのことを知ってもらえたらしいですね。

テラまち雑貨店

瑞泉寺と井波のまちをつなぐ活動として2020年4月に立ち上がった任意団体「テラまちコネクト」。まちのお母さんたちと一緒に瑞泉寺山門前の「テラまち雑貨店」を運営しています。ここでは井波のまちの魅力、瑞泉寺の歴史や寺院建立の願いに触れてもらうために、物語のあるおみやげの企画や販売を行っています。また、まちの人たちによる体験型のワークショップも開催しています。井波にお越しの際にはぜひお立ち寄りください。物語のあるおみやげはオンラインストアでも購入いただけます。*下記QRコードより閲覧いただけます。



コーディネーター研修の流れ

テラまちコネクトのコアメンバーに向けたコーディネーター研修を実施しました。研修を通じて、テラまち雑貨店のコンセプトを考え活用方法を検討しました。

STEP

1

Yes, and を練習

相手の願いをきくには、相手にたくさん語ってもらうことが必要です。まちのひとたちへのヒアリングを前に、メンバー同士で相手の話を「きく」練習をしました。



2

まちの人たちの想いをまとめる

まちの人たちから瑞泉寺への想い、テラまち雑貨店に期待することをヒアリングした結果から、雑貨店があることで実現したいまちの未来を考えました。



3

コンセプトを考える

他施設のコンセプトの事例を集めて、テラまち雑貨店のコンセプト「今日やってるかな」を考えました。まちの人たちや観光客がふらっと立ち寄れる、ゆるく続けることを大切にしていきます。



4

小さくやってみる

コンセプトを踏まえて、テラまち雑貨店を舞台に、お寺とまちをつなぐ活動をまちの人たちと一緒に企画しました。坊主バー、瑞泉寺の彫刻模様のぬりえ、腕輪念珠づくりのワークショップなど。



5

ふりかえる

小さく試してみたことをふりかえることが大切です。準備段階、プログラム当日のよかったです、課題をみんなで共有し次の活動に活かしました。



開催の目安 ◎小さく実施したその日もしくは翌日にみんなで1時間程度のふりかえりと今後に向けた話し合い。

関連冊子紹介

人生100年時代の生き方を応援する お寺の開き方

「お寺を開くとは何か」、「どうすればお寺を開くことができるのか」という問い合わせについて、どんな寺院でも導入しやすいように、根室別院の取り組みをベースに基礎的な方法をまとめた冊子です。よく使う資料の書式やチェックリストも掲載しています。



お問い合わせ 真宗教化センター寺院活性化支援室 (075-371-9208)

僧侶がまちに出て仲間をつくるガイドブック

まちとつながるために

2022年6月30日発行

発行 真宗大谷派（東本願寺）
真宗教化センター 寺院活性化支援室

協力 井波別院瑞泉寺、テラまちコネクト
編集 studio-L（西上ありさ、太田未来、藤山綾子）
デザイン studio-L
イラスト 白石伸々子

